

## 2-4 アンケート調査結果の概要

### (1) 調査の種類等

本調査は、「与謝野町高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画」の策定の基礎資料とすることを目的に実施しました。種類は、次の2種類でそれぞれの目的と概要は次のとおりです。

#### ■調査の種類・方法等

| 調査の種類と対象者                   |  | 実施方法  | 調査方法                 |
|-----------------------------|--|-------|----------------------|
| ①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査           |  |       |                      |
| 町内にお住まいの65歳以上高齢者、要支援1・2認定者  |  | 無作為抽出 | 直接配布・郵送による回収<br>自己記入 |
| 調査期間 令和5年1月                 |  |       |                      |
| ②在宅介護実態調査                   |  |       |                      |
| 町内にお住まい(在宅)の要介護1～5認定者、主な介護者 |  | 全数    | 直接配布・郵送による回収<br>自己記入 |
| 調査期間 令和5年1月                 |  |       |                      |

【調査対象地区】 町内全域

### (2) 回収状況

本調査の回収状況は、次のとおりです。

#### ■調査対象及び回収状況

| 調査の種類             | 配布数   | 回収数 | 回収率   | 有効集計数 |
|-------------------|-------|-----|-------|-------|
| ①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 | 1,497 | 913 | 61.0% | 910   |
| ②在宅介護実態調査         | 914   | 420 | 46.0% | 415   |

※回収数・回収率には集計対象の期間を過ぎて提出された分も含む

### (3) 主な調査結果

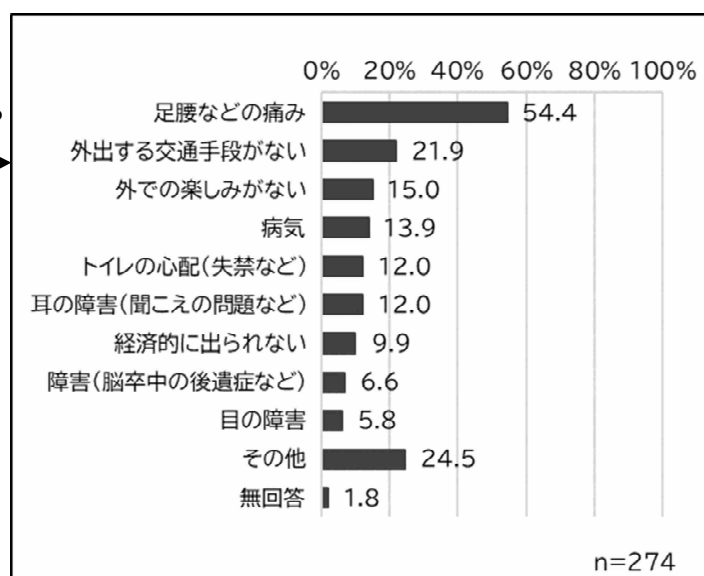
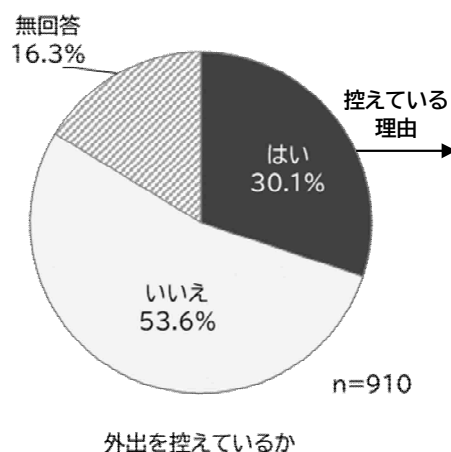
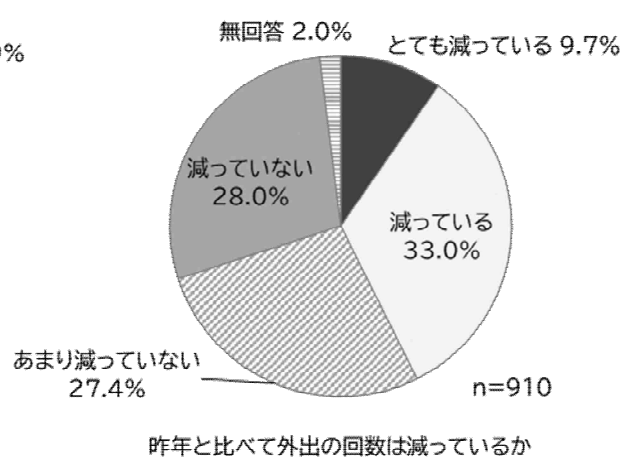
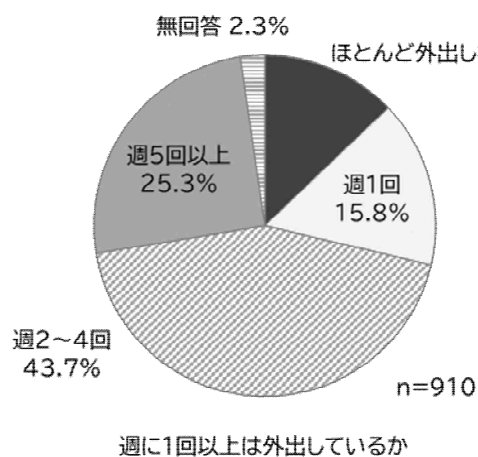
#### ①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

##### ■外出について ～外出を控えている人、閉じこもりリスクを抱えている人が約3割～

『週に1回以上は外出しているか』について、「週2～4回」が43.7%となっています。

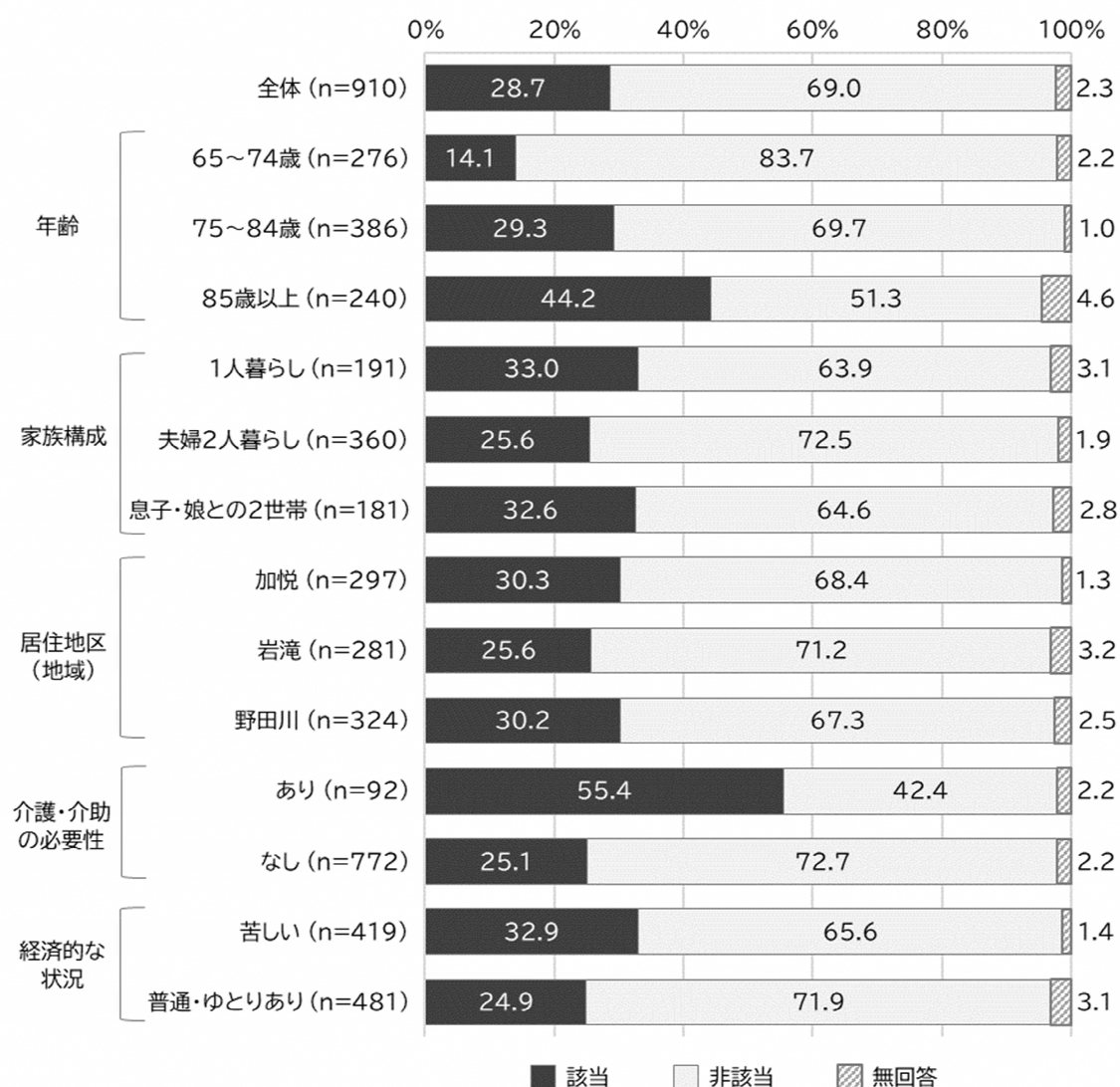
『昨年と比べて外出の回数は減っているか』について、「とても減っている」(9.7%)と「減っている」(33.0%)を合わせると“減っている人”は40%を超えています。

『外出を控えているか』について、「いいえ」が53.6%、「はい」は30.1%となっており、「はい(控えている)」の理由は、「足腰などの痛み」が54.4%と最も高く、次いで「その他(新型コロナウイルス感染症に関すること等)」が24.5%、「外出する交通手段がない」が21.9%と続いています。



## 〈閉じこもりリスク高齢者の割合〉

全体では、閉じこもりリスク高齢者に「該当」する人は27.1%となっています。  
年齢でみると、「該当」する人は85歳以上で44.2%にまで増加しています。

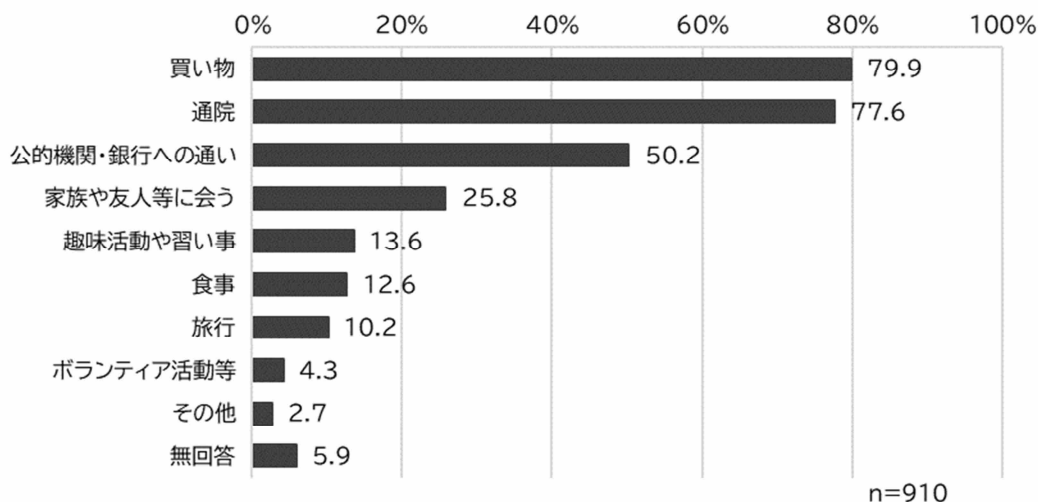


## 判定基準

| 設問項目 |                 | 回答        |     |       |       | 判定基準 |
|------|-----------------|-----------|-----|-------|-------|------|
| 問3-1 | 週に1回以上は外出していますか | ほとんど外出しない | 週1回 | 週2～4回 | 週5回以上 | 該当   |
|      |                 | 該当        |     | 非該当   |       |      |

■今後、移動手段が無くなると、外出に困る行き先・目的 ～買物と通院が上位2つ～

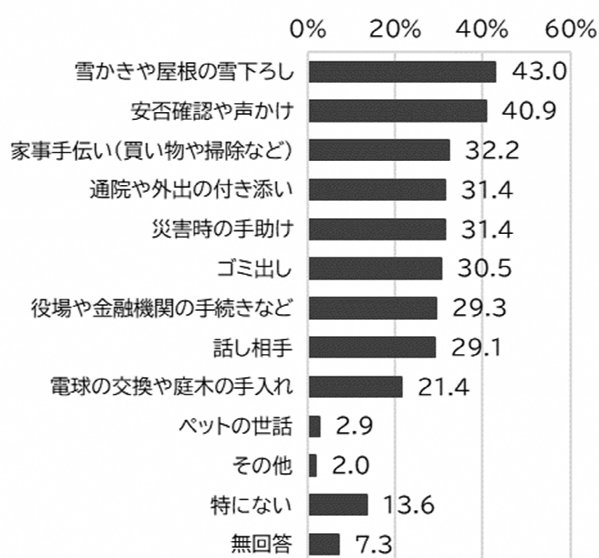
「買物」が79.9%と最も高く、次いで「通院」が77.6%、「公的機関・銀行への通い」が50.2%、「家族や友人等に会う」（25.8%）の順となっています。



■日常生活が不自由になったとき、“近所や地域にしてほしいこと”と“あなたができること”  
～雪かきや屋根の雪下ろしのニーズが大きく、安否確認や声かけはニーズも大きい、できる人も多い～

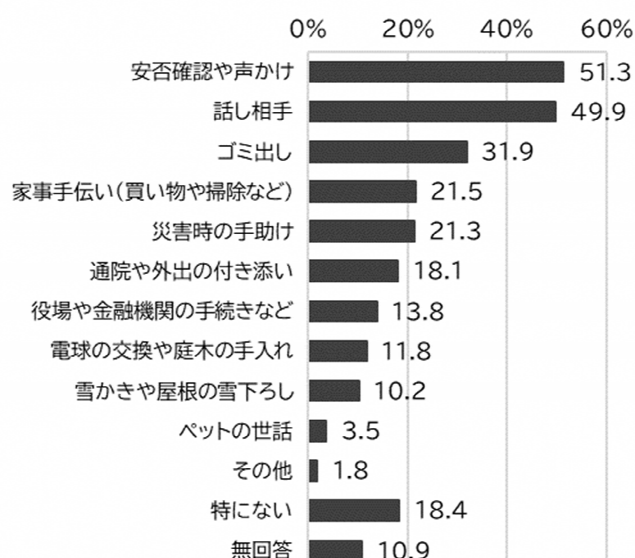
“近所や地域にしてほしいこと”は、「雪かきや屋根の雪下ろし」が43.0%と最も高く、次いで「安否確認や声かけ」が40.9%、「家事手伝い（買い物や掃除など）」が32.2%、「通院や外出の付き添い」と「災害時の手助け」が31.4%、「ゴミ出し」（30.5%）の順となっています。

“あなたができること”は、「安否確認や声かけ」が51.3%と最も高く、次いで「話し相手」が49.9%、「ゴミ出し」が31.9%、「家事手伝い（買い物や掃除など）」が21.5%、「災害時の手助け」（21.3%）の順となっています。



近所や地域にしてほしいこと

n=910



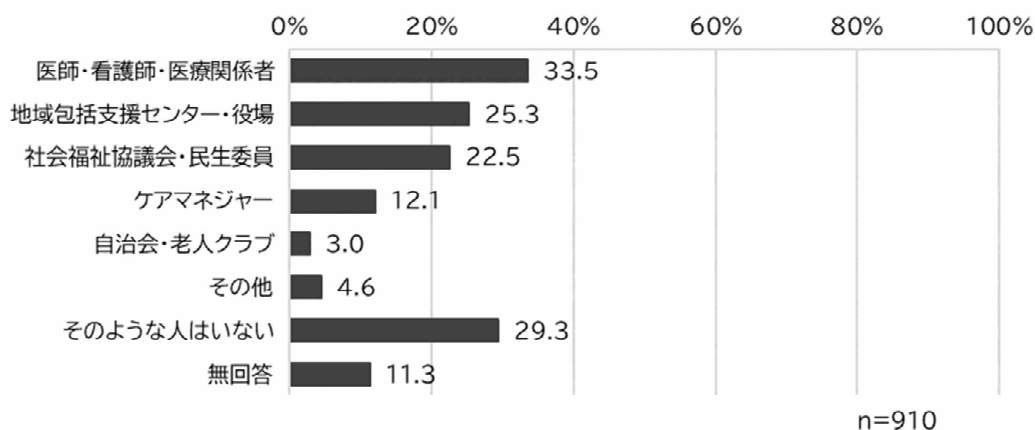
あなたができること

n=910



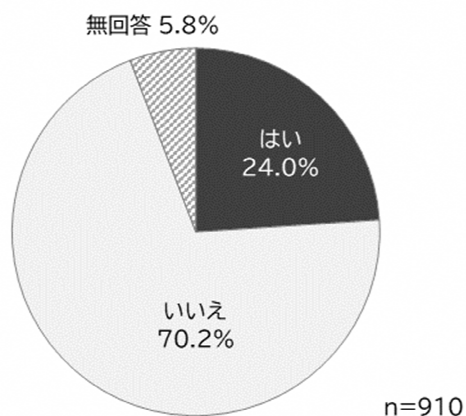
■家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手 ～いないが約3割～

「医師・看護師・医療関係者」が33.5%と最も高く、次いで「そのような人はいない」が29.3%、「地域包括支援センター・役場」が25.3%、「社会福祉協議会・民生委員」（22.5%）の順となっています。



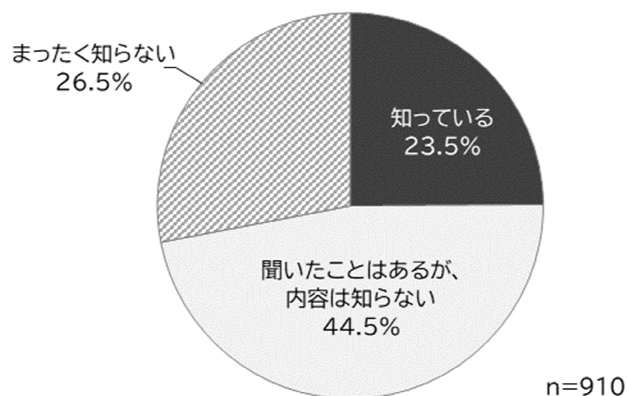
■認知症に関する相談窓口の認知度 ～認知度は約1割～

「いいえ」が81.0%、「はい」は11.0%となっています。



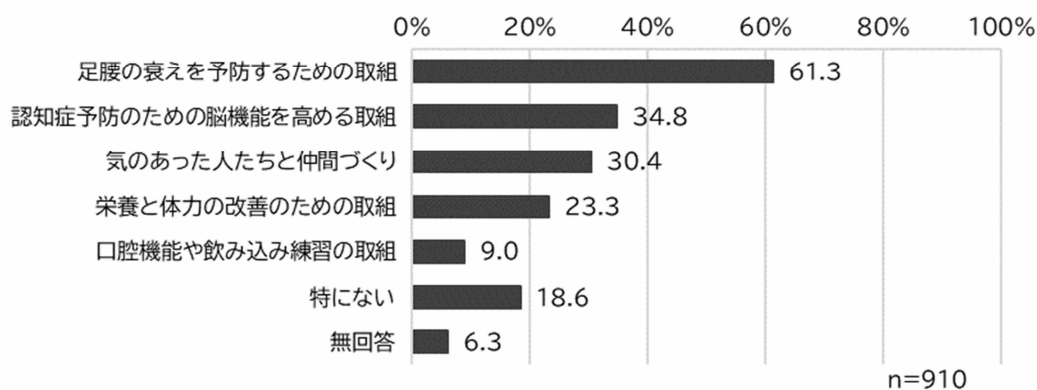
■成年後見制度の認知度 ～認知度は約2割～

「聞いたことはあるが、内容は知らない」が44.5%と最も高く、次いで「まったく知らない」が26.5%、「知っている」は23.5%となっています。



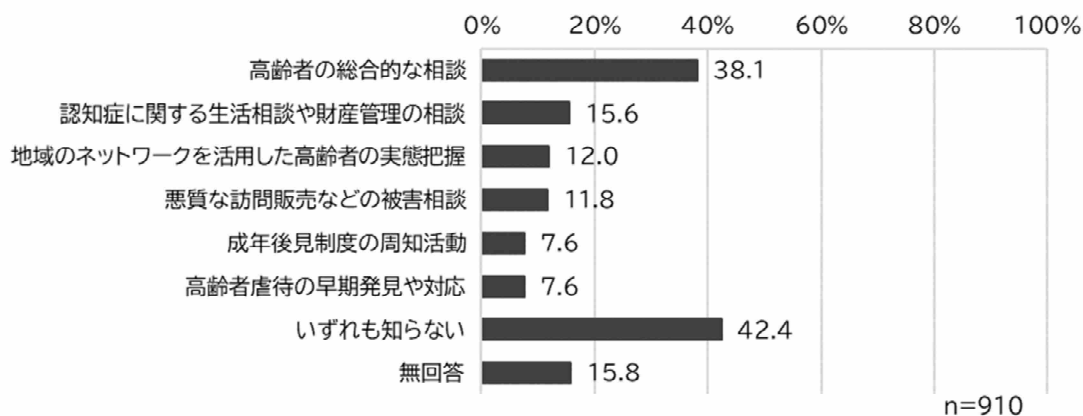
■利用したいと思う生活機能の低下を予防するための取組 ～足腰の衰え（身体的フレイル）予防にニーズ～

「足腰の衰えを予防するための取組」が61.3%と最も高く、次いで「認知症予防のための脳機能を高める取組」が34.8%、「気のあった人たちと仲間づくり」が30.4%、「栄養と体力の改善のための取組」（23.3%）の順となっています。



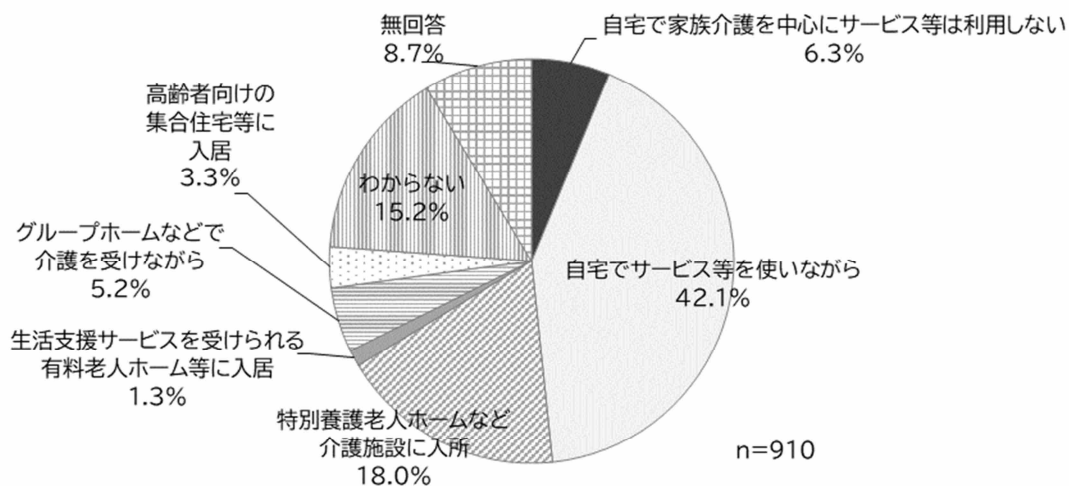
■地域包括支援センターの役割や機能について知っていること ～認知症や権利擁護の窓口としての周知が課題～

「いずれも知らない」が42.4%と最も高く、次いで「高齢者の総合的な相談」が38.1%、「認知症に関する生活相談や財産管理の相談」が15.6%、「地域のネットワークを活用した高齢者の実態把握」が12.0%、「認知症に関する生活相談や財産管理の相談」（15.6%）の順となっています。



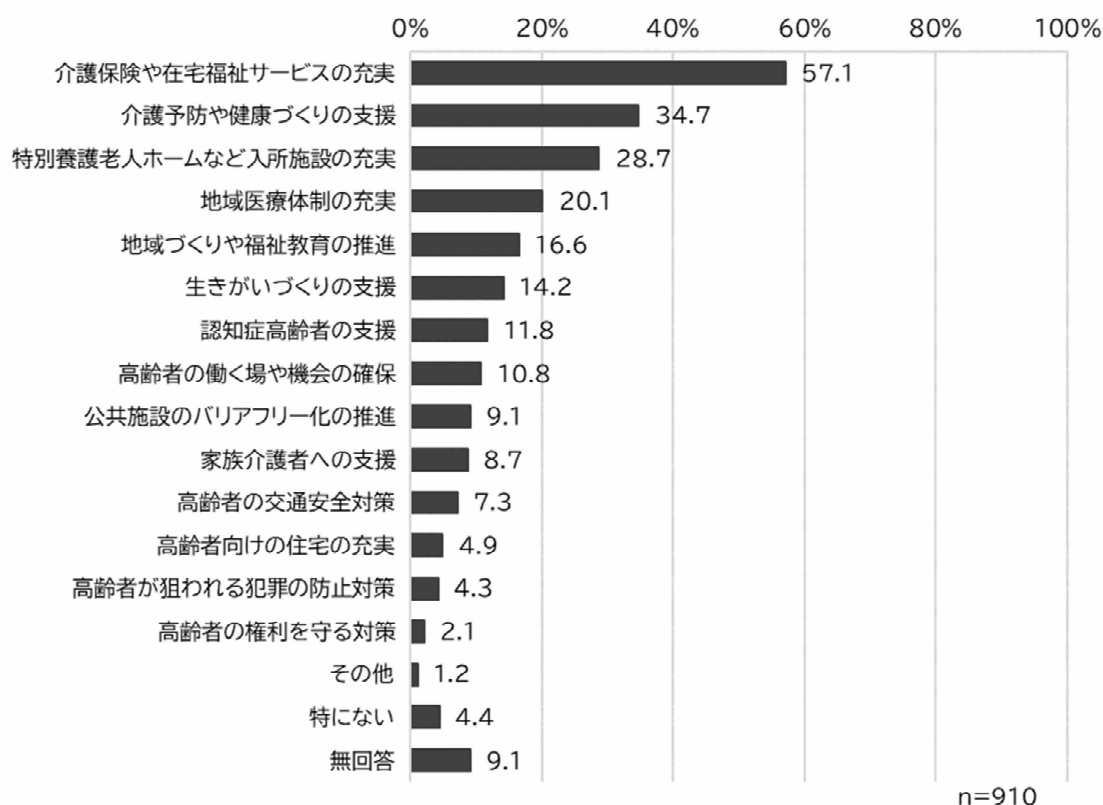
■自身が介護を受けることになった場合、どのように過ごしたいか ～約半数が自宅での生活を希望～

「自宅でサービス等を使いながら」が42.1%と最も高く、次いで「特別養護老人ホームなど介護施設に入所」が18.0%、「わからない」が15.2%、「自宅で家族介護を中心にサービス等は利用しない」(6.3%)の順となっています。



■今後の生活を豊かにするために、行政が力を入れるべきこと ～在宅福祉サービスの充実が最上位～

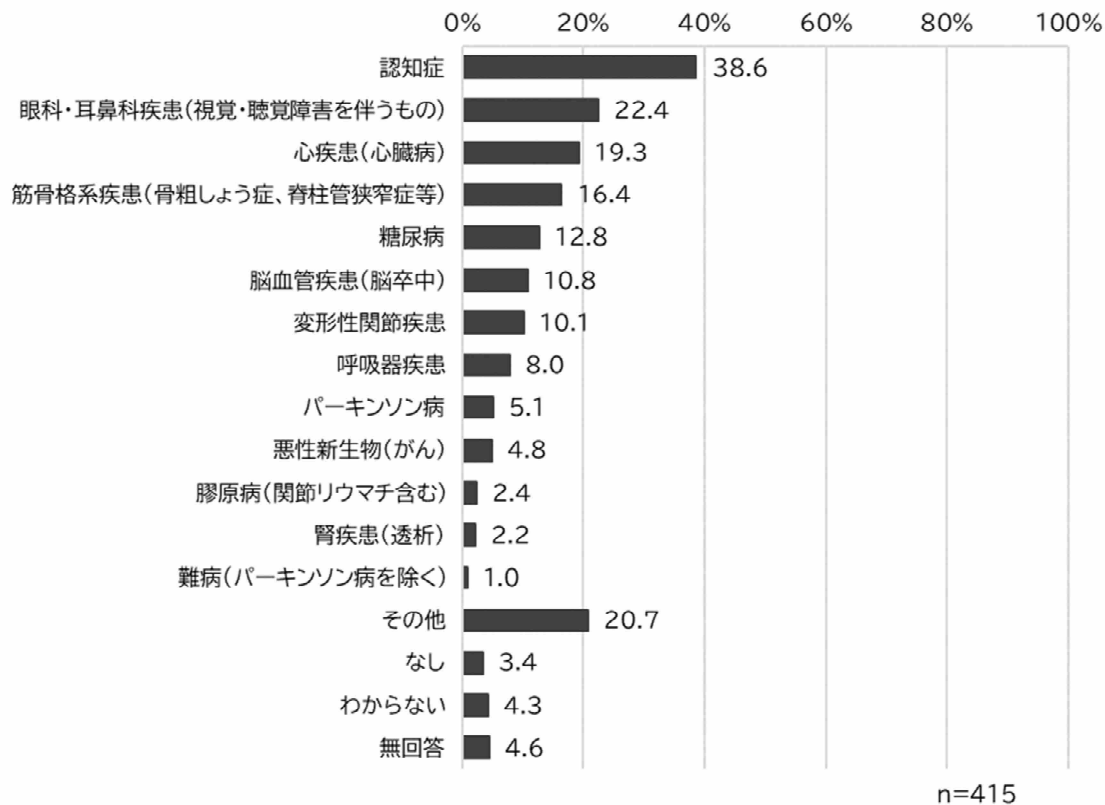
「介護保険や在宅福祉サービスの充実」が57.1%と最も高く、次いで「介護予防や健康づくりの支援」が34.7%、「特別養護老人ホームなど入所施設の充実」が28.7%、「地域医療体制の充実」が20.1%の順となっています。



## ②在宅介護実態調査

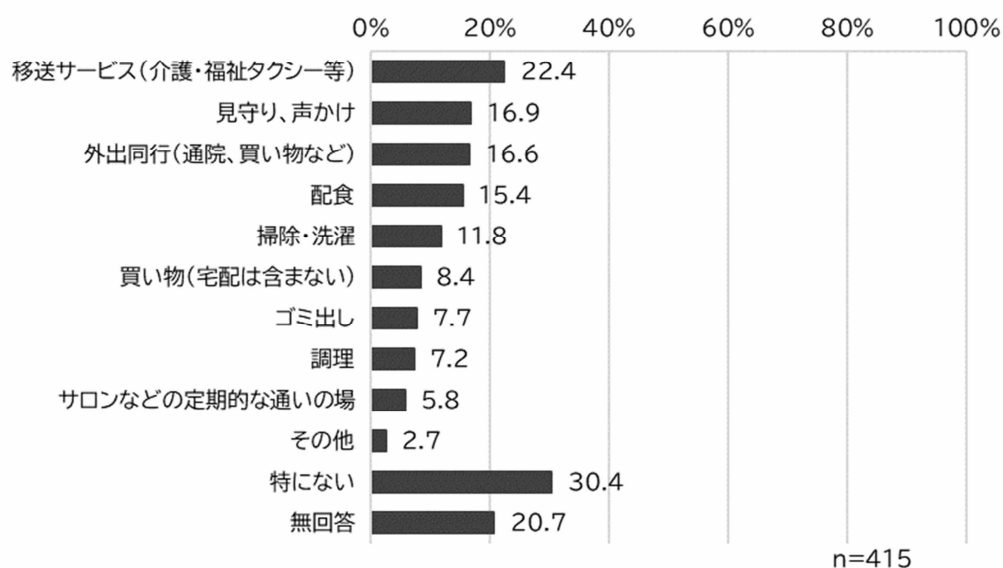
### ■本人が現在抱えている疾病 ～約4割の人が認知症～

「認知症」が38.6%と最も高く、次いで「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が22.4%、「その他」が20.7%、「心疾患（心臓病）」が19.3%、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」（16.4%）の順となっています。

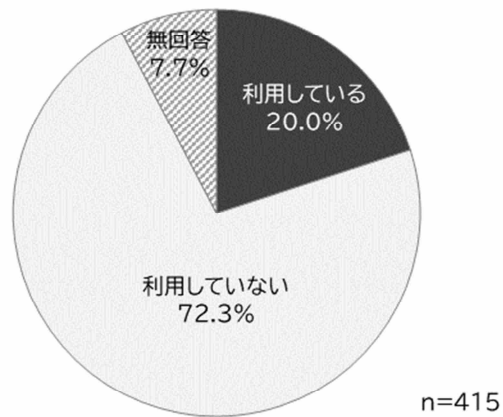


### ■今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス ～移送サービスが最上位～

「特にない」が30.4%と最も高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が22.4%、「見守り、声かけ」が16.9%、「外出同行（通院、買い物など）」が16.6%、「配食」（15.4%）の順となっています。

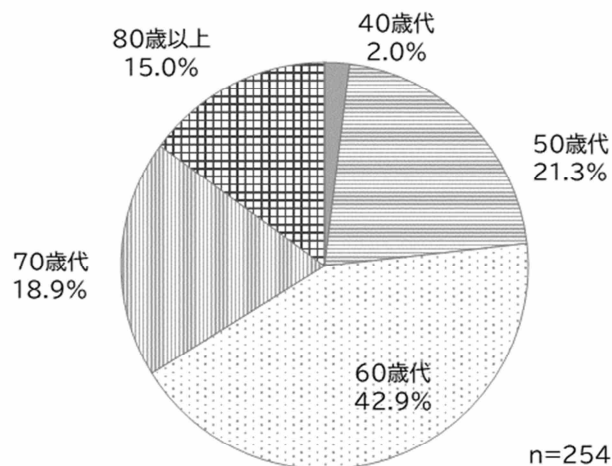


■訪問診療・往診の利用 ～介護と医療の両方を必要とする人は要介護3以上の約3割～  
「利用していない」が72.3%、「利用している」は20.0%となっています。  
要介護度でみると、要介護3以上の「利用している」は32.4%となっています。



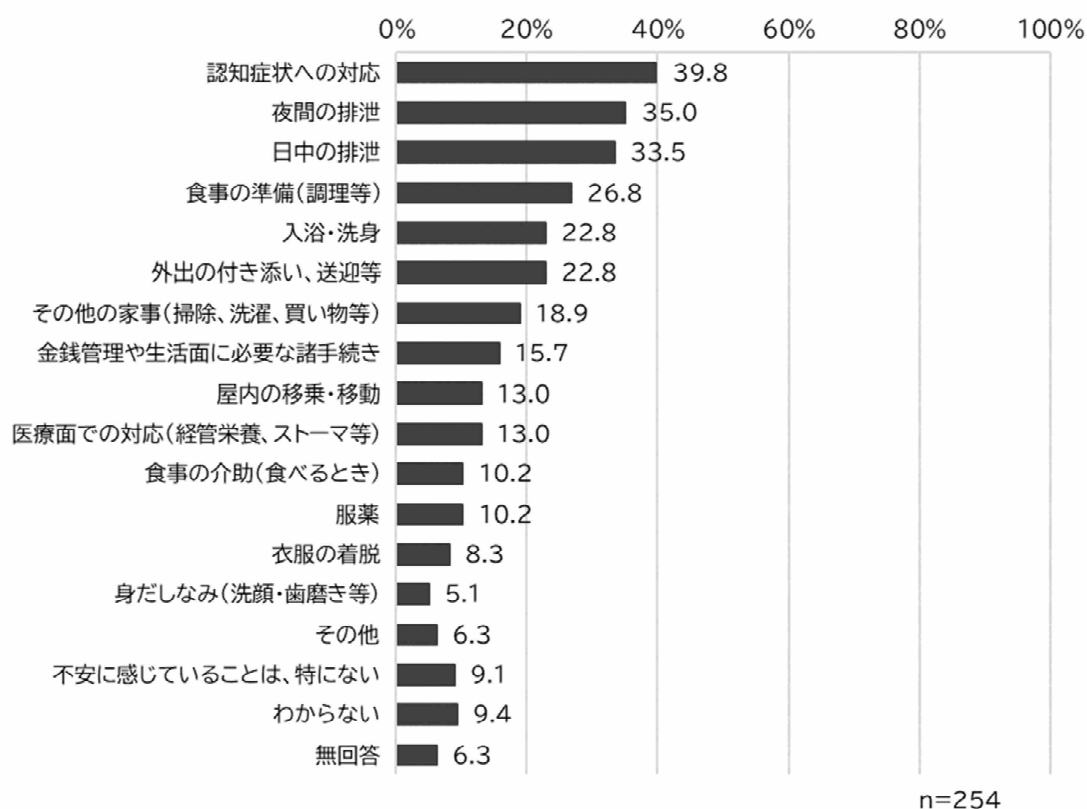
|         | 全体   | 要介護度   |        |       | 家族構成 |        |      |
|---------|------|--------|--------|-------|------|--------|------|
|         |      | 要介護1・2 | 要介護3以上 | わからない | 単身世帯 | 夫婦のみ世帯 | その他  |
| <回答者数>  | 415  | 251    | 136    | 13    | 96   | 116    | 190  |
| 利用している  | 20.0 | 12.7   | 32.4   | 38.5  | 12.5 | 24.1   | 20.5 |
| 利用していない | 72.3 | 81.3   | 58.1   | 53.8  | 76.0 | 68.1   | 74.7 |
| 無回答     | 7.7  | 6.0    | 9.6    | 7.7   | 11.5 | 7.8    | 4.7  |

■主な介護者の年齢 ～40歳代・50歳代が約2割。80歳以上が15%～  
「60歳代」が42.9%と最も高く、次いで「50歳代」が21.3%、「70歳代」が18.9%、  
「80歳以上」（15.0%）の順となっています。



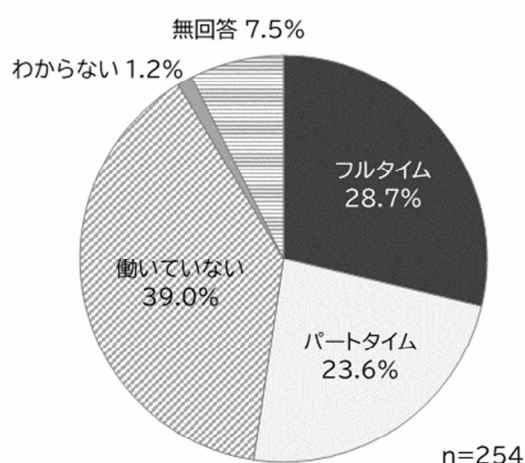
## ■主な介護者の方が不安に感じる介護等 ～認知症状への対応が最上位～

「認知症状への対応」が 39.8%と最も高く、次いで「夜間の排泄」が 35.0%、「日中の排泄」が 33.5%、「食事の準備（調理等）」が 26.8%、「入浴・洗身」と「外出の付き添い、送迎等」が 22.8%となっています。



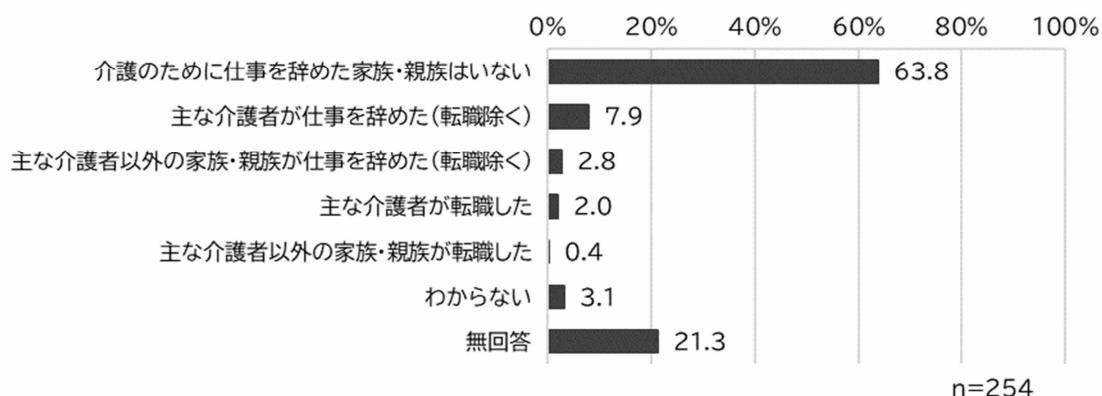
## ■主な介護者の現在の勤務形態 ～働いている人が半数以上～

「働いていない」が 39.0%、「フルタイム」が 28.7%、「パートタイム」は 23.6%となっています。



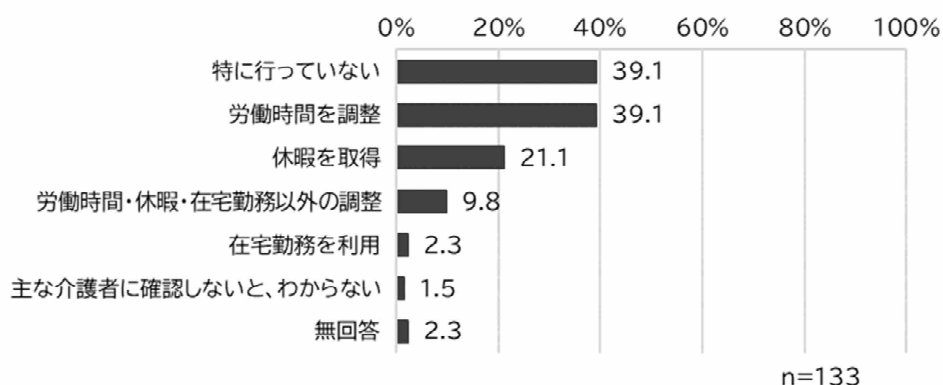
■介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方の有無 ～仕事を辞めたケースが約1割～

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が63.8%、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が7.9%、「わからない」は3.1%となっています。



■介護をするにあたって、主な介護者が行っている働き方についての調整等 ～労働時間を調整している人が約4割～

「特に行っていない」と「労働時間を調整」が39.1%、「休暇を取得」は21.1%となっています。



■主な介護者は今後も働きながら介護を続けていけそうか ～問題はあるが、何とか続けていけるという人が約6割～

「問題はあるが、何とか続けていける」が61.7%と最も高く、次いで「続けていくのは、やや難しい」が12.8%、「続けていくのは、かなり難しい」が11.3%、「問題なく、続けていける」(10.5%)の順となっています。

